

## NC遡及ファイル(洋図書)の自動検索順序の変更

### 1. 趣 旨

現在、NC遡及ファイル(書誌約50万件)はNCのカレントファイルと同時に検索され、カレントファイルのデータの後ろに簡略表示されています。

NC遡及ファイルの扱いについては、これまでの運用の過程でいくつかの問題点が生じていますので、NCのカレントファイルと区分してNC遡及ファイルの指定を可能にするとともに、NC遡及ファイルの自動検索順序をUKファイルの次とします。

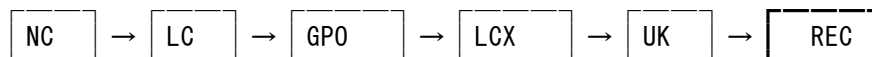
### 2. ファイル名

NC遡及ファイルの名称を「REC」とします。

従って、NC遡及ファイルのファイル指定が可能となります。

### 3. 変更後の自動検索順序

自動検索順序を次のとおりとします。



### 4. 実施予定日

次号のオンライン・システムニュースレター及びオンラインニュース画面等でお知らせします。

### 5. 注意事項

遡及ファイルのデータの取り扱い(REGISTER,EDIT の仕組み) は、従来通りで変更はありません。(詳細は、ニュースレターNo.14, p.22~28 を参照)

## 非図書資料の入力指針

5月31日からUSMARC(Music)、同(Visual materials)、同(Maps)を参照ファイルLCXとしてサービスを開始しました。

そこで、非図書資料を登録する際の入力指針について記します。詳細については、目録システム・コーディングマニュアルに、各フィールドごとに掲載する予定です。

### 1. 入力するファイル

#### 1) 音楽資料

ニュースレターNo. 25でお知らせしたように、音楽資料については、

ア 標題あるいは本文の言語により和洋を判断するのが困難な場合があること

イ 音楽資料を専門的に扱っている図書館では和洋を区分せず、AACR2による目録作成が一般的であること

などを考慮し、各参加組織が下記のa)、b)のいずれかの方法を選択できるものとします。

a) 音楽資料についても従来どおり、規定の情報源に表示されている標題の言語により、和図書、洋図書いずれのファイルに登録するかを決める。

(例1) 標題が日本語のレコード

→ 和図書ファイルに登録する。記述はNCR1987の録音資料の章に従う。

(例2) 標題が外国語のレコード

→ 洋図書ファイルに登録する。記述はAACR2の録音資料の章に従う。

b) 音楽資料は一括して洋図書ファイルに登録する。

(例3) 標題が日本語のレコード

→ 洋図書ファイルに登録する。記述はAACR2の録音資料の章に従う。

(例4) 標題が外国語のレコード

→ 洋図書ファイルに登録する。記述はAACR2の録音資料の章に従う。

なお、ここで「音楽資料」としているものは、

(1) 楽譜資料(GMD がcまたはf)

(2) マイクロ形態(GMD がh)で、その内容が楽譜であるもの

(3) 音楽録音資料(GMD がs)

(4) 映画(GMD がm)、ビデオレコード(GMD がv)のうち、内容が楽曲等の演奏であるもの(音楽作品名の統一書名標目が適用可能なもの等)

です。これらの資料については、和洋両方に書誌レコードが登録されていても、重複とは見做されません。

#### 2) 音楽資料を除く非図書資料

上記の以外の資料種別(非音楽録音資料、映像資料のうち内容が楽曲等でないもの、地図資料、機械可読データファイル、楽譜を除く手稿等)については、当面、従来どおり、標題の言語(不適切な場合は本文に相当するものの言語)により和洋いずれのファイルに入力するかを決定します。

## 2. 適用する目録規則

### 1) 和図書ファイル

原則として、NCR1987 の該当章に従います。

(例) 標題が日本語の楽譜を和図書ファイルに登録  
→ NCR1987 第5章 楽譜に従う

### 2) 洋図書ファイル

原則として、AACR2 1988 Revision の該当章に従います。

AACR2 1988 Revision の日本語版は刊行されていません。現行の日本語版と大きく異なる点は、「第5章 楽譜」と「第11章 マイクロ資料」に「楽譜の種類に関する事項 (Musical presentation statement area)」、「第9章 機械可読データファイル」に「ファイルの特性に関する事項(File characteristics area)」が新設されたことです。これらの事項は、NOTEフィールドに該当章の章だての語句を付して記録します(後述)。

現在、参照LCのレコードはAACR2 1988 Revision に従い作成されています。

### 3) 統一書名典拠ファイル

次項参照

## 3. 統一書名典拠

これまでの無著者名古典、聖典の標題に加え、音楽作品名(曲集等を含む)についても統一タイトル標目を適用することになりました。これにより、様々な標題、資料形態で出版される音楽作品を、異版も含め網羅的に検索することが可能になります。

(例) ロッシーニ 歌劇シンデレラ  
Cendrillon/Aschenputtel/Cinderella/Generentola/シンデレラ...  
→ (統一書名標目) Rossini, Gioacchino, 1792-1868 -- Generentola

### 1) 統一書名典拠レコードの作成単位

統一書名典拠レコードは、無著者名古典・聖典の1著作(ここでいう著作には聖典の部篇も含む)に対し1レコードを作成することになっています。

音楽作品についても、基本的には上記の原則に従い、1作品(作品の部分も含む)に対し1レコードを作成しますが、多くの内容作品を持つ曲集については、

- UTL フィールドの繰り返し可能回数等に物理的な制限がある(30回が上限)ため、個々の内容作品に対してUTL フィールドを作成できない場合もある
- 個々の内容作品に対してUTL フィールドを作成できない場合も、集合タイトルを適用することによって、ジャンル等による限定は可能である点を考慮し、例外的に集合タイトルを認めることにしました。

## 2) 統一書名標目の記述文法

### ア 著者標目の下の統一タイトル (複合形の標目)

作曲者を有する音楽作品名に対する標目は、以下の記述文法に拠ります(△は空白を表す。以下同様)。

- NCR1987による標目:

著者標目△--△統一タイトル/著者標目のヨミ△--△統一タイトルのヨミ

- AACR2による標目:

著者標目△--△統一タイトル

### イ 統一タイトル単独形 (単独形の標目)

作曲者が不明を有しない音楽作品名に対する標目は、従来と同じく、以下の記述文法に拠ります。

- NCR1987による標目: 統一タイトル/統一タイトルのヨミ

- AACR2による標目: 統一タイトル

## 3) 音楽作品名の統一書名標目形

### ア 著者標目部分の形

著者標目部分の形は、「基準」8.4、および目録規則の著者標目の形に関する条項(NCR1987 第23章、AACR2 22, 24)に従います。(適用する目録規則については次項参照)

当該作曲者に対する著者名典拠レコード、および当該作曲者の下の統一書名典拠レコードが既にNCに登録されている場合は、それらに著者標目部分の形を合わせます。

### イ 統一タイトル部分の形

統一タイトル部分の形は、「基準」9.4、および目録規則の統一タイトルの形に関する条項(NCR1987 第26章、AACR2 25.25-35)に従います。(適用する目録規則については次項参照)

なお、目録規則の統一タイトルに関する条項が定める標目の構成要素のうち、著作の言語、刊年等は標目形に含めません(「基準」9.4.2 3)に準じる)。これらは書誌レコードのUTLフィールドの「その他の情報」として記録します。したがって、統一タイトル部分の構成要素は以下のものになります。

タイトル(または楽曲形式名),演奏手段,数の識別要素(逐次番号・作品番号・主題目録番号等),調,その他の識別要素.部編番号.部編名・部分のタイトル;編曲表示.スケッチ・ボーカルスコア・コーラススコア・台本・歌曲のテキストの表示

なお、標目の統一を図るためには、楽曲形式名・演奏手段を表す語の統一が必要ですので、その名称のリストの作成を検討しています。このリストは、後日、コーディングマニュアル付録として刊行する予定です。

#### (例1) 作品の固有の標題

Verdi, Giuseppe, 1813-1901 -- Traviata

#### (例2) 楽曲形式名+付記事項

Chopin, Frederic, 1810-1849 -- Sonatas, piano, no. 2, op. 35, B♭ minor

#### (例3) 集合タイトルを適用

Schubert, Franz, 1797-1828 -- Songs. Selections

#### (例4) 楽曲の部分に対する標目

Verdi, Giuseppe, 1813-1901 -- Traviata. Addio del passato

#### (例5) 原曲を編曲したものに対する標目

Beethoven, Ludwig van, 1770-1827 -- Trios, oboes, English horn, op. 87, C major; arr

(例6)リブレット(歌劇の台本)

Wagner, Richard, 1813-1883 -- Fliegende Hollander, Libretto

(例7)同一名称の別作品を識別する要素として、楽曲の完成年、初版の刊年を記録

Mahler, Gustav, 1860-1911 -- Song of lamentation (1880)

#### 4) 適用する目録規則

##### ア 著者標目の下の統一タイトル(複合形の標目)

「基準」の8.4.21)、および同条項の解説「目録規則適用基準」により適用する目録規則を決定します。

##### a) 作曲者が日本名、中国名、韓国・朝鮮名

NCR1987 を適用し、標目は資料(参考情報源を含む)に表示されている文字の形で作成し、ヨミを付けます。

なお、現在のところ、NCR1987 には音楽作品名の統一タイトルに関する詳細な規定が存在しません。NCR1987 に規定していない事項については、当面、必要に応じ音楽図書館協議会「日本目録規則 音楽作品の統一タイトル(案)」を参照してください(入用の際は図書目録情報係に問い合わせてください)。

##### b) 作曲者が外国名

AACR2 を適用し、ローマ字で表記します。

(例 1) 日本人作曲家による作品の統一書名標目 → NCR1987 を適用する  
武満, 徹(1930-) -- 雨の樹// タケミツ, トオル -- アメノキ

(例 2) 外国人作曲家による作品の統一書名標目 → AACR2 を適用する  
Verdi, Giuseppe, 1813-1901 -- Traviata

##### イ 統一タイトル単独形(単独形の標目)

タイトルの言語が日本名、中国名、韓国・朝鮮名であればNCR1987、外国名であればAACR2 を適用します。標目の表記は前項 1と同様です。

#### 5) 統一書名典拠参照ファイル(LC)

従来は、無著者名古典・聖典の標題など「統一タイトル」のみの形の標目だけ格納していましたが、音楽作品名についても統一タイトル標目を適用することになったことに合わせ、「著者標目+統一タイトル」形の標目のレコードも格納します。8月に運用開始予定です。

(仕様変更後の統一書名典拠参照レコードの一例)

統一書名典拠詳細表示	LC	3/	3
>			
<JA00002557> RECST:c			
HDNG:Beethoven, Ludwig van, 1770-1827 -- Trios, oboes, English horn, op. 87, C major; arr			
UNID:			
SF:Beethoven, Ludwig van, 1770-1827 -- Trio, oboes & English horn, op. 87, C major; arr			
SF:Beethoven, Ludwig van, 1770-1827 -- Trios, saxophones, op. 87, B ♭ major			
SF:Beethoven, Ludwig van, 1770-1827 -- Trios, saxophones, op. 87, E ♭ major			
SF:Beethoven, Ludwig van, 1770-1827 -- Trios, clarinets, bassoon, op. 87, B ♭ major			
NOTE:AACR2 (LC name auth.)			
NOTE:His Trio, op. 87, c1980			
NOTE:LC data base, 12/16/87 (hdg.: Beethoven, Ludwig van, 1770-1827. Trio, oboes & English horn, op. 87, C major; arr.)			
REM:001:n 87151624 ¥005:19900611090847.0¥040: \$aDLC\$cDLC\$dDLC¥400:10\$wnnaa			

#### 4. 各フィールドの入力上の注意点

##### 1) GMD

入力レベル「必須2」ですから、該当するコードがあるときは、必ず記録してください(ただし、親書誌の場合は、入力レベル「選択」です。子書誌全体から該当するコードが判断できるときは記録してください)。詳細については、目録システム・コーディングマニュアル、付録1.1を参照してください。

(例1)CD-ROM → GMD: W

## 2) SMD

入力レベルは「選択」ですが、検索の際、資料の形態で限定可能になることを考慮し、できるだけ記録するようにしてください。

(例1)ヴォーカル・スコア → GMD: c SMD: c

(例2)LPLレコード(音楽) → GMD: s SMD: b

(例3)CD(音楽) → GMD: s SMD: c

## 3) TXTL

当該資料本体の言語を記録します。付録等の言語は、特に重要な意味を持っていない限り、記録しません。

- a) 地図資料 ..... 地図資料本体中の説明語、説明文の言語
- b) 楽譜 ..... 声楽譜本体の歌詞の言語
- c) 映画、ビデオレコード ..... 話されたり、歌われている言語。字幕の言語
- d) 録音資料 ..... 話されたり、歌われている言語
- e) 機械可読データファイル ... 検討中

## 4) ORGL

3)の各項に該当する資料本体が翻訳・吹き替え等である場合、オリジナル・原本の言語を記録します。

## 5) OTHN

非図書資料の登録に対応するために、番号の種類コードを新設しました(コーディングマニュアル 付録1.7を参照のこと)。これにより、標準番号に準じる楽譜・録音資料・映像資料等の各種番号の記録、検索が行えます。これらの番号は当該資料の検索を行うとき、また、書誌を同定する場合、図書資料におけるISBNと同様有用なのでできるだけ記録してください。

### ア 番号の記録

- a) 番号を記録する際は必ず「番号の種類コード」を付ける楽譜の番号が、プレート番号であるか出版者番号であるか判断できないときは、コード "MUNO" を付与する。
- b) 楽譜のプレート番号、出版者番号等は、出版者名等を除いた部分を記録する
- c) 録音資料・映像資料のレーベル名は省略する
- d) 必要に応じ、NOTEフィールドに目録対象資料に表示されているとおりの形を記録する

(例1) 楽譜のプレート番号  
OTHN: PLNO: S. & B. 4081  
NOTE: Pl. no.: S. & B. 4081

(例2) 楽譜の出版者番号  
OTHN: PUNO: 5200 (Edition Breitkopf Nr. の部分は記録しない)  
NOTE: Publisher's no.: Edition Breitkopf Nr. 5200

(例3) 録音資料(レコード・カセットテープ・CD等)の発行者番号  
OTHN: LANO: 28DC5303 (レーベル名 CBS Sony は記録しない)  
NOTE: CBS Sony: 28DC5303

(例4) 映像資料(ビデオディスク・ビデオテープ等)の発行者番号  
OTHN: VMN: CDV-512

## イ 番号による検索

検索の際はSEARCHコマンドを使います。OTHNフィールドから検索キーを作成するとき、以下の記号はトルツメされますので、検索の際、これらの記号をトルツメした形を入力する必要があります。

-	ハイフン	(	始め丸括弧	△	スペース
/	スラッシュ	)	終わり丸括弧	(STRN)	(XSTRN)

(例) 目録対象資料に表示されているレーベル番号= CDV-513  
→ >: SEARCH OTHN=CDV513 (ハイフンをトルツメする)

## 6) TR

情報源により標題の形が異なることがしばしばあるので、原則として、目録規則が定める情報源により標題を決定してください。また、資料種別ごとに標題、標題関連情報、並列標題の扱いを定めてある場合があります(楽譜、地図等)。

## 7) ED

楽譜において、歌曲(集)の声部を表す表示が版表示に該当することがあります(NCR1987 5.2.1.1A 参照)。この場合、当該表示が異なるものは別書誌となります。

(例1)「低声用」(原調から低声用に移調されている) → ED: 低声用

(例2)"High voice" (原調から高声用に移調されている) → ED: High voice

## 8) VT

TRに記録した標題と異なる、他の情報源(例:付属資料、容器等)に表示されている標題はVTフィールドに記録することができます。

## 9) PHYS

資料の形態等を識別する上で重要なので、目録規則の該当章の規定に従って、記入してください。

## 10) NOTE

## ア 資料特性に関する事項

現在、楽譜資料の「楽譜の種類に関する事項 (Musical presentation statement area)」、地図資料の「数値に関する事項 (Mathematical data area)」、および、機械可読データファイルの「ファイルの特性に関する事項 (File characteristics area)」を記録するフィールドが用意されていません。

そこで、暫定的に目録規則の当該章の章だての語句+コロンを付して、一番最初のNOTEフィールドに記録することとします。

目録規則の該当章の章だての語句 : 資料特性に関する事項

(例1) 和図書ファイルに登録する楽譜資料

→ NOTE: 楽譜: 指揮者用スコア

(例2) 和図書ファイルに登録する地図資料

→ NOTE: 地図資料: 1:25,000; 横軸正積割円筒図法

(例3) 洋図書ファイルに登録する楽譜資料

→ NOTE: MUSIC: Partition d'orchestre

(例4) 洋図書ファイルに登録する地図資料

→ NOTE: CARTOGRAPHIC MATERIALS: Scale [ca. 1:10,000] ; Gauss proj.  
(W9° 13' 52" -- W9° 04' 47" / N38° 48' 35" -- N38° 41' 29")

これらの事項は、NOTEフィールドに記録されますが、目録規則が示す記述の第2レベルでは必須項目となっている(ただし、AACR2では「楽譜の種類に関する事項」は任意規定)ので、目録対象資料中に表示があれば記録するようにしてください。また、記録の際は、目録規則に規定されている情報源に表示されているとおり転記します。当該事項のデータ要素の句読法は目録規則の該当条項によってください。

#### イ その他の注記事項

非図書資料は、「基準」のデータ項目一覧で入力レベル「必須1」「必須2」とされている項目のみでは版の同定が困難なことも考えられます。NOTEフィールドの入力レベルは「選択」ですが、版の同定上有用と思われる情報は目録規則に従いできるだけ注記するようにしてください。

#### 11) AL

TRフィールドの責任表示に対応する著者標目は、入力レベル「必須2」です。CW、NOTEフィールド等に対応する著者標目は、入力レベル「選択」です。

#### 12) UTL

#### ア 主記入フラグ

統一タイトルを含んだ標目形を基本記入の標目として取り込みたいときは、ALフィールドではなく、UTLフィールドに主記入フラグを記録できます。

(例) AL: Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791  
UTL: \*Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791 -- Zaubерflöte  
→ カード等の出力形  
Mozart, Wolfgang Amadeus, 1756-1791  
[Zaubерflöte]  
The magic flute / Mozart. -- In full score. -- New York ; ...

#### イ 統一書名標目形

- a) TRフィールドに記録された標題
- b) CWフィールドに記録された標題
- c) NOTEフィールドに記録された標題

に対応する統一書名標目を30まで記録することができます。楽譜・録音資料の「曲集」のように1書誌レコードに多くの内容作品を含んでいるときは、集合タイトルを適用することができます。

統一書名標目の詳細については、前記3.を参照してください。

#### ウ その他の情報

統一書名典拠レコードの標目の構成要素とならない刊年(同一タイトルの異なる作品を識別するために付記する場合を除く)、言語、版等は、UTLフィールドの「その他の情報」として記録します。

(例1) 刊年  
UTL: Schubert, Franz, 1797-1828 -- Nocturne, piano trio, D. 897, E b major <...> 1979  
(例2) 言語  
UTL: Verdi, Giuseppe, 1813-1901 -- Traviata. Vocal score <...> English & Italian

## 5. 書誌レコード作成単位



複合媒体資料、付属資料等の取扱いなど、今後蓄積されてゆく登録事例を検討し、方針をニュースレター、コーディングマニュアルに掲載する予定です。

## 和雑誌誌名変遷情報の一括更新を実施

和雑誌の誌名変遷情報（変遷マップ及び関連書誌データの変遷関係フィールド）の一括更新を6月15～16日に行いました。今回の更新作業は全国調査で提出いただいた変遷データシート及びオンライン館から随時送付いただいているデータシートによる報告分が対象となっています。

今回の作業は一旦変遷情報の削除を行い、その後、変遷管理情報を基に変遷情報を一括して再作成する、という手順をとりました。これにより、1,691件の変遷マップが新規に追加されました。各参加館には、変遷関係確定のため、情報源コピーの送付についてご協力いただき、ありがとうございました。

データシートによって報告いただいた変遷は、事実関係を確定した後すみやかに変遷情報を作成する原則ですが、今回は和文編の全国調査による新規書誌の追加及び書誌修正を反映させるために、このようにまとめて行うことになりました。

今後は確認調査の反映を含め、逐次更新を行っていく予定ですので、変遷関係が判明した場合にはデータシートによってご報告下さいますようよろしくお願いいたします。

## 重複書誌に対する注記

センターに重複レコードの報告があると、以下の2つのうち、いずれかの方法により、重複統合の処理を行っています。

1. 重複レコード処理プログラムにより、リンクの付替(所蔵、書誌)、重複レコードの削除処理を行う。
2. 上記のプログラムで処理できないものは、電話、FAX、ニュースレター等で所蔵の付替をセンターから各参加組織に依頼する。所蔵がなくなり次第、重複レコードを削除予定レコードにする。

このうち 2 の場合、所蔵付替が完了するまでの間、目録担当者がどちらのレコードを採用するか判断がつかず、削除対象となっているレコードに所蔵/書誌をリンクしてしまう可能性があります。

上記のような事態を回避するため、センターでは、削除対象レコードであることを示す注記を次のように記録することにします。この注記があるレコードは、リンクがなくなり次第削除予定レコードになるので、書誌/所蔵のリンク形成を行わないでください。

なお、この注記は当分の間、センターのみが書き込むこととします。各参加組織の目録担当者は書き込まないでください。

これらの書誌レコードに関する問い合わせは、NOTEフィールドに記録されたセンター管理番号と書誌レコードIDにてお願いします。

### ○ 注記の形式

1番最初のNOTEフィールドに記録する  
NOTE: @@@999999999,YYMMDD ==> BN999999999

センター管理番号

入力日付

付替先書誌ID

(西暦年の下2桁+6桁の一連番号)

## 目録情報に関する質問書から

### 1. 構造の種類コード

PTBLフィールドの末尾に、“...//a”、“...//b”というコードがあるが何か

NCの書誌レコードを取り込むとき、構造の種類コードの整合性がとれていないため困っている。構造の種類コードを修正してよいのか。

構造の種類コードは、各参加組織でカードを出力したり書誌データをダウンロードする際、親書誌標題をシリーズエリアに出力するか、標題および責任表示に関するエリアに出力するかを選択するために設けられた項目です。(「目録情報の基準(改訂版)p. 31 参照)

(例1)親書誌TR情報をシリーズエリアに出力

TR: 社会学理論 / 浜島朗編 // シャカイガク リロン  
PUB: 東京 : 東京大学出版会 , 1975  
PHYS: 307p ; 22cm  
PTBL: 社会学講座 // シャカイガク コウザ  
<BN00336390> 2//a

→ 社会学理論 浜島朗編  
東京 東京大学出版会 1975  
307p 22cm  
(社会学講座 2)

(例2)親書誌TR情報を標題および責任表示に関するエリアに出力10

TR: 社会学理論 / 浜島朗編 // シャカイガク リロン  
PUB: 東京 : 東京大学出版会 , 1975  
PHYS: 307p ; 22cm  
PTBL: 社会学講座 // シャカイガク コウザ  
<BN00336390> 2//b

→ 社会学講座 2  
東京 東京大学出版会 1975  
307p 22cm  
2 社会学理論 浜島朗編

総合目録データベースでは書誌構造を把握する場合、標題が「シリーズ」であるか「セットものの標題」であるかを区別する必要はありません。構造の種類コードの入力レベルは「選択」ですから、記録するか否かは各参加組織の任意です。上記のような区別を行っていない参加組織は、記録する必要はありません。登録時に何も指定しないと、構造の種類コードは "a" が仮定されます。

構造の種類コードは、各参加組織の便宜のために設けられた項目ですから、書誌レコードを利用する館にとって不都合があれば、修正することができます。

### 2. 親書誌の並列書名

シリーズの親書誌で、並列書名の有無や、並列書名のうちどれを本標題に選択するか  
の相違で親書誌が複数作成されている。どうすべきか。

原則として、上記のような相違のみでは別の親書誌を作成する根拠にはなりません  
(ニュースレター No. 29 p. 32 参照)。このような書誌が複数件ヒットしたときは、  
書誌IDが最も小さい書誌にリンクしてください。

なお、LINKTO PARENT コマンド発行時は、以下のような検索キーによって検索が  
行われています。

```
洋図書書誌検索・簡略表示          NC          1-      4/      4
>:
TITLE=Europäische Hochschulschriften
AUTH =
AKEY :EURH          ISBN:          LCCN:
PUB  =          YEAR:
PLACE=          CNTRY:      LANG:
SH   =
WORDS=
ID   :          PID:
FILE :
```

\*AKEY :EURH と検索キーが埋め込まれているため、並列標題をもつものはヒットしない。

```
洋図書書誌検索・簡略表示          NC          1-      4/      4
>:
TITLE=:Europäische Hochschulschriften = Publications universitaires europeen
nes= European university studies
AUTH =
AKEY :EURHPU       ISBN:          LCCN:
PUB  =          YEAR:
PLACE=          CNTRY:      LANG:
SH   =
WORDS=
ID   :          PID:
FILE :
```

\*AKEY :EURHPU と検索キーが埋め込まれているため、並列標題をもたないものはヒットしない。

LINKTO PARENT コマンドで自動検索を行ってNCにヒットしなかったからと、そ  
のまま書誌を新規作成すると重複書誌を作ってしまう可能性があります。

自動検索でNCにヒットしなかったときは、必ず AKEY や並列書名を削除して、再  
検索してください。

### 3. 出版を目的として作成された複製の記述

出版を目的として作成された複製の記述が、あるものは原本、あるものは複製物によ  
って記述されているなど統一がとれていない。

出版を目的として作成された複製はAACR2 に従い、複製物として記述します。た  
だし、UMIなどに代表される注文生産資料(注文のつど、マイクロ形態や電子複写等の  
手段によって提供される資料)の出版年については、原本の出版年または著作権登録年  
等を記録します。製作年等(複製の日付等)は、必要ならば所蔵レコードのCPYRフィ  
ールドに記録します。すなわち、複製の日付が異なっても別書誌とはしません。

参照LCでは、AACR2 に拠らず複製物は原本により記述し、複製物に関する事項は  
注記しています(LC適用細則 11 参照)。

参照LCとは異なるので、流用入力の際は修正を加える必要があります。

出版を目的として作成された複製の記述

フィールド		情報源	参照LCの情報源
PUB	TR ED PTBL 出版地・出版者	複製物の情報源 (複製物の情報源がないときは原本の情報源)	原本の情報源*
	出版年	(注文生産資料のときは原本)	
PHYS		複製物自体	原本自体*

\*参照LCでは、記述対象である複製物の書誌的事項は注記されている

参照LCのレコード ... 流用するときは修正が必要

TR:	}	原本により記述されている → 複製による記述にする必要あり
PUB:		
PHYS:		
NOTE:		

資料の形態 + 出版に関する事項 + 形態に関する事項  
 [ Photocopy, Microfilm ]  
 [ Microfiche 等 ]  
 → 注記に記録された複製の「出版に関する事項」「形態に関する事項」は削除する

#### 4. キリル文字等の外字

目録システム文字セットにないキリル文字がある。どのように登録すべきか。

日本語の外字の登録方法に準じて、1字ずつ、「... ◆LCの翻字形◆ ...」の形で登録してください。

#### 6. 簡化字の登録

「基準」には、中国語の簡化字は対応する目録システム用文字セット中の漢字で代用するとあるが、実際には、1つの簡化字に文字セット中の複数の文字が対応する場合や、簡化字と同じ字形であっても、本来の意味とは異なる場合もあり(以下に例)、すでに登録されているもので齟齬をきたしている。  
 何らかの指針をセンターが示すべきではないか。  
 (例)

簡化字	対応する文字セット中の字
学	學
辞	辭
声	聲
谷	穀
后	後
里	裏
台	臺
干	乾
蒙	蒙

御指摘のように、「基準」の該当条項では、上記のような場合、どの字を採用するのか触れていません。

形の同じ文字が文字セット中にあれば、それを使うのか、あるいは繁体字にするのか、また、意味まで考慮して対応する文字を決めるのか等々、各参加組織における運用も考慮しつつ、検討させていただきます。

## 平成3年度第1回総合目録委員会の審議事項

平成3年5月16日(木)に、標記委員会が開催され、「ILLシステムの参加機関の範囲」及び「国立大学図書館協議会「ILLシステムレポート」への回答」について審議が行われた。

ILLシステムの参加機関の範囲については、原則として、これまで学術情報センターが提供する各種サービスの利用者となっている機関をできるだけ広く包含する方向で範囲を決定していくことが承認された。

国立大学図書館協議会「ILLシステムレポート」への回答については、昨年7月30日付の国立大学図書館協議会からの要望に対する回答案として、開発中のILLシステムの概要とシステムの内容説明資料を提示することが承認された。この回答案については、公立、私立大学への広報資料としても使用することが了承された。

## 平成3年度第1回総合目録小委員会の審議事項

平成3年7月4日(木)に、標記委員会が開催され、ILLシステムの開発及び「目録情報の基準」の整備について審議が行われた。

ILLシステムの開発については、

- 1 システム開発の進捗状況について
- 2 NACSIS-IRからのILL申込機能について
- 3 ILL実務担当者会議の設置について

検討が行われた。

「目録情報の基準」の整備については、

- 1 図書の懸案事項について

検討が行われたが、「目録情報の基準」で決定できない個別ケースの扱いも含めて次回に継続審議されることになった。